

大日精化工業株式会社

決算説明会資料

東証プライム
証券コード：4116

2023年6月8日



1. 当社について



当社の概要や沿革、事業セグメントと販売先業界に加え、私たちの強みを紹介しています。

2. 2023年3月期決算概要



当社及び事業セグメントごとの決算概要と通期業績予想を紹介しています。

3. 中期経営計画 進捗状況



2021年8月に公表した中期経営計画初年度の進捗状況を技術主導、ESG、海外戦略の3つの柱に分けて紹介しています。

1. 当社について

会社概要

企業理念

「人に興味を持とう」 「新しいことに興味を持とう」 「未来に興味を持とう」

会社名	大日精化工業株式会社 Dainichiseika Color & Chemicals Mfg. Co., Ltd.
本社所在地	東京都中央区日本橋馬喰町一丁目7番6号
創業	1931年10月16日
代表者	代表取締役社長 高橋 弘二 (たかはし こうじ)
資本金	100億39百万円 (東京証券取引所 プライム市場)
従業員数	連結3,665名 (2023年3月31日現在)
連結売上高	1,220億05百万円 (2023年3月期)
グループ会社	国内9社 海外19社

グローバル展開：市場成長性・需要に対応した戦略的拠点展開

	海外拠点		国内拠点
製造	Color & Functional	10拠点	14拠点
	Polymer & Coating	3拠点	
	Graphic & Printing	3拠点	
営業	4拠点		13拠点
研究開発			6拠点



展開エリア	主な製造品
日本	樹脂コンパウンド・プラスチック用着色剤、コーティング剤・ウレタン樹脂、印刷インキ
中国	樹脂コンパウンド・プラスチック用着色剤、コーティング剤・ウレタン樹脂、印刷インキ
台湾	プラスチック用着色剤、ウレタン樹脂
タイ、ベトナム インド	樹脂コンパウンド・プラスチック用着色剤
インドネシア	印刷インキ
アメリカ	コーティング剤・ウレタン樹脂、印刷インキ
ヨーロッパ	樹脂コンパウンド・プラスチック用着色剤

沿革：コア技術をもとに海外市場・環境貢献製品に展開

技術

有機無機合成・顔料処理技術

分散加工技術

ウレタン樹脂・アクリル樹脂合成技術

参入市場

- 顔料の量産を開始 (日本初)
- ペースト状塩ビ用着色剤 (ビニルトナー) (日本初)
- ビニロン・レイヨン繊維用原液着色剤 (日本初)
- ポリオレフィン用ドライカラー・マスターバッチ
- コンピュータカラーマッチング (日本初)
- IJ分散体
- CF用顔料
- ウレタン樹脂事業参入
- シリコン・ウレタン樹脂
- 紫外線硬化型コーティング材
- 塩ビシート用グラビアインキ
- 食品包装用グラビアインキ

拠点

- 彩華顔料合資会社設立
- 大日精化工業株式会社設立
- 東京製造事業所
- 浮間合成株式会社設立
- 成田
- 中国
- 東海
- アメリカ
- インドネシア
- 台湾
- 韓国
- 加須・佐倉
- オランダ
- タイ
- インド
- ベトナム
- 新本社竣工
- 坂東



本社

坂東製造事業所

1940年度

1960年度

1980年度

2000年度

2020年度

売上高
(億円)

2,000

1,500

1,000

500

49
48
東証プライム上場

東証2部上場

東証1部上場

当社事業セグメントと最終製品のイメージ

	Color & Functional Products	Polymer & Coating Materials	Graphic & Printing Materials
	顔料及び顔料の2次加工製品	合成樹脂及び特殊コーティング剤	パッケージ用及び広告出版用インキ
主な製品	<ul style="list-style-type: none"> 顔料・カラーベース 繊維用着色剤・捺染剤 プラスチック用着色剤・機能剤 	<ul style="list-style-type: none"> ウレタン樹脂 コーティング剤 天然物高分子 	<ul style="list-style-type: none"> グラビアインキ フレキソインキ オフセットインキ
主な利用用途	<ul style="list-style-type: none"> 塗料・印刷インキ トナー・IJプリンタ用インキ LCDカラーフィルタ 建材・日用品・紙製品 	<ul style="list-style-type: none"> 合成皮革(家具、衣料) 車両内装材・建材・日用品 電線・ケーブル・ベルト 化粧品 	<ul style="list-style-type: none"> 食品・日用品包装材 食品用トレー 
	<ul style="list-style-type: none"> 車両・産業資材 インテリアファブリック アパレル製品 紙 	<ul style="list-style-type: none"> LCDパネル 加飾用フィルム パソコン・事務機器 	<ul style="list-style-type: none"> 飲料ボトルラベル 産業資材・建材 ダンボール・包装材 
	<ul style="list-style-type: none"> 車両 家電・日用品・アウトドア用品 産業資材・農業資材・建材 食品包装・トイレタリー 	<ul style="list-style-type: none"> 化粧品 排水浄化・水処理 	<ul style="list-style-type: none"> 広告・書籍 パッケージ 

当社セグメントの販売先業界

B to B メーカーとして多様な業界に最適な製品を提供

Color & Functional Products 顔料及び顔料の2次加工製品

輸送機器

建材・設備

産業資材

包装

情報・電子

Polymer & Coating Materials 合成樹脂及び特殊コーティング剤

輸送機器

建材・設備

産業資材

衣料品・服飾品

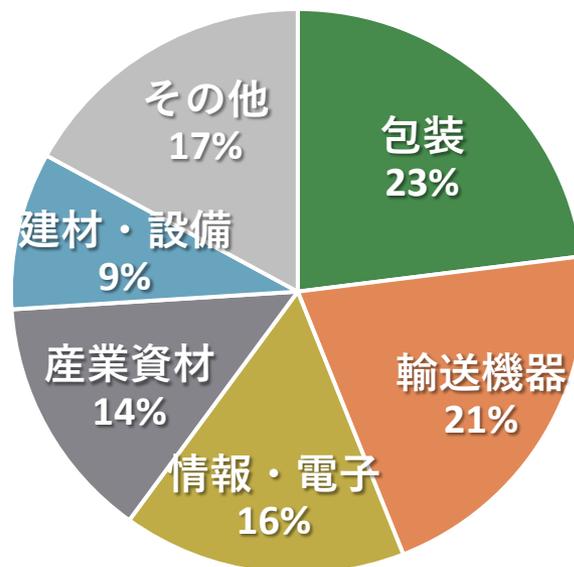
情報・電子

Graphic & Printing Materials パッケージ用及び広告出版用インキ

包装

広告・出版

2023年3月期（国内海外合計）



お取引先

大日精化工業の製品を用いて、
多様な最終製品に加工



当社セグメント製品と売上・利益

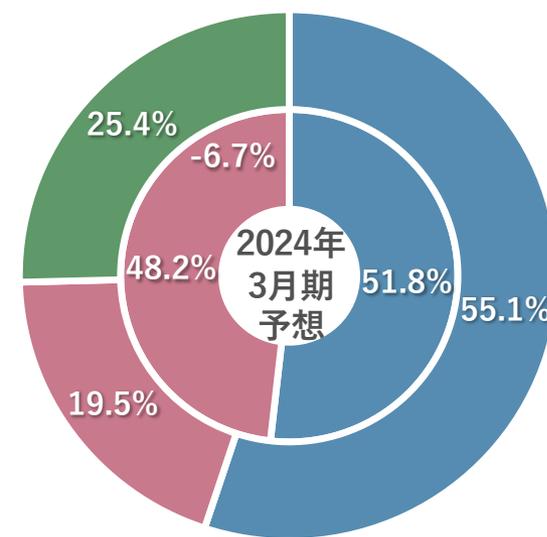
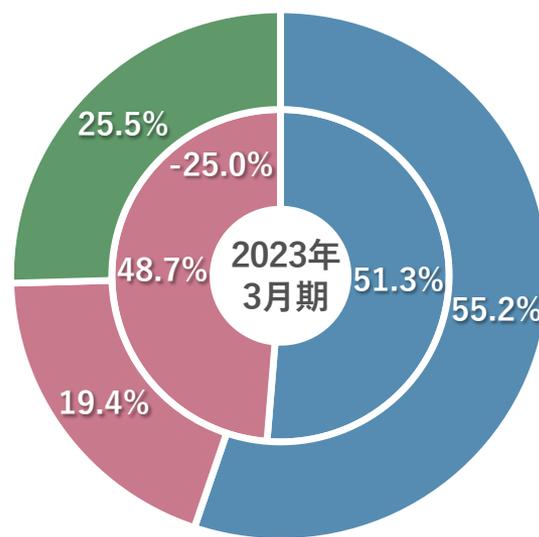
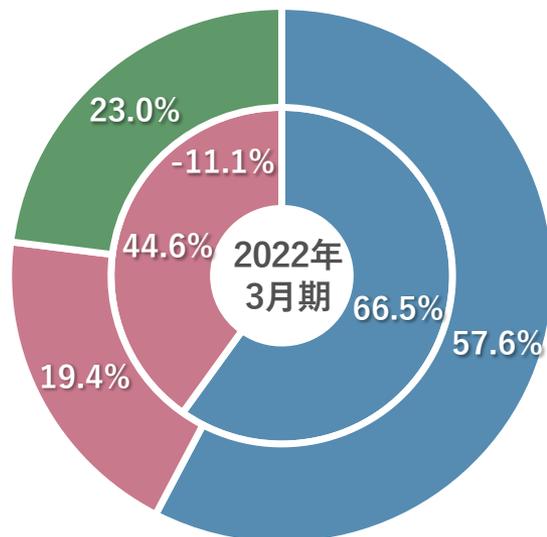
Color & Functional

Polymer & Coating

Graphic & Printing

内側：売上利益構成比

外側：売上構成比

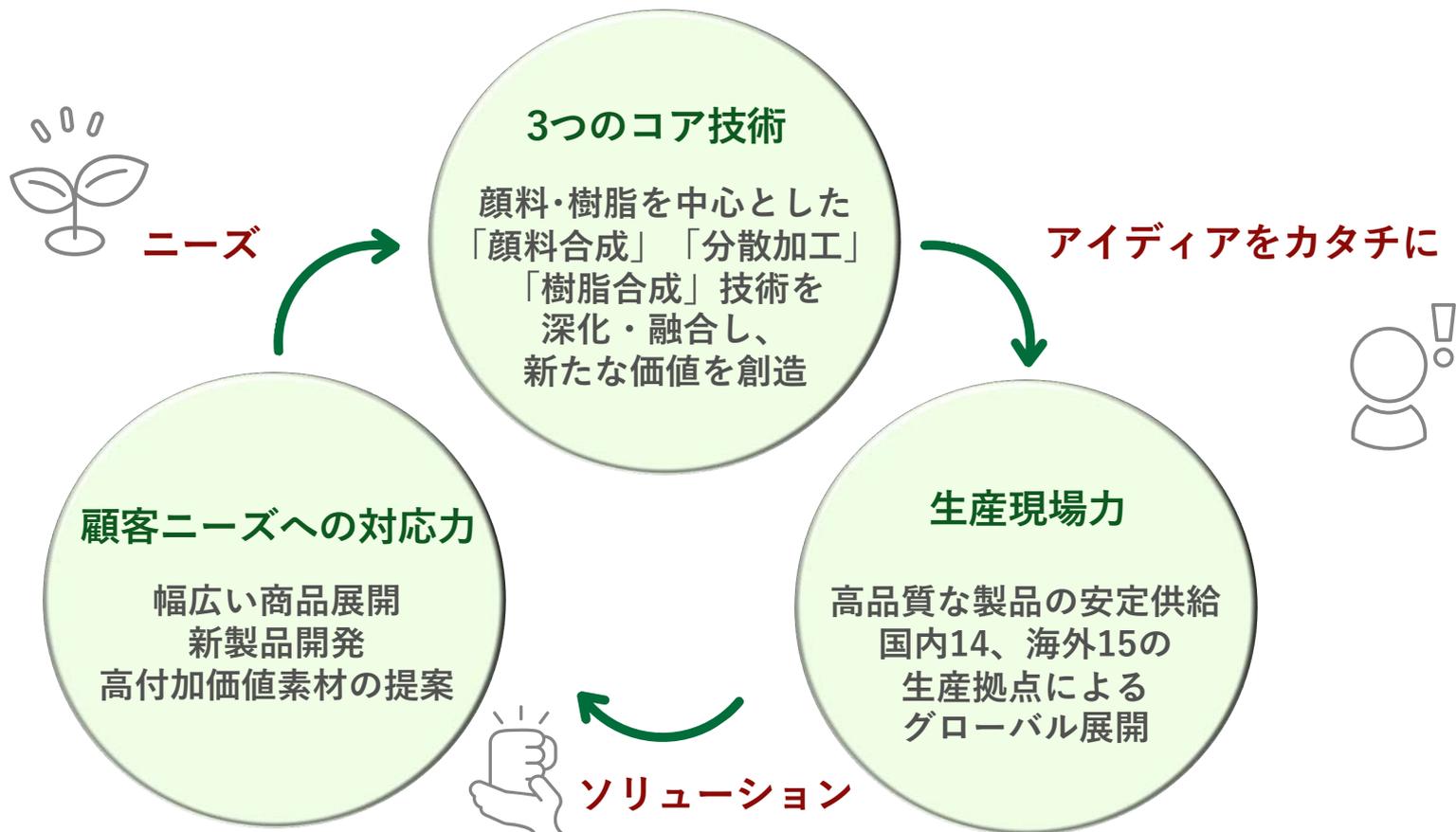


単位：億円・切捨	売上高			営業利益		
	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想
カラー&ファンクショナル プロダクト (C&F)	702	672	705	49	20	29
ポリマー&コーティング マテリアル (P&C)	236	236	250	33	19	27
グラフィック&プリンティング マテリアル (G&P)	280	310	325	△8	△13	△4
合計	1,219	1,220	1,280	74	26	52

私たちの強み | Our Strength

「彩り」と「アイデアをカタチにする」化学メーカー

顔料を祖業に、創業以来90年にわたり磨いた技術で、
社会や環境のニーズに即した付加価値の高い素材を生み出す会社



ものづくりを通じた社会・環境への貢献

2. 2023年3月期決算概要

連結損益計算書

- ・売上高 : 自動車、液晶ディスプレイ向け中心に全般的に減少も販売価格の見直しと円安により増収
- ・営業利益 : 原材料価格高止まりに販売価格の見直し進めるも追い付かず
新工場稼働による移転費用及び減価償却費増加
- ・当期純利益 : 特別利益に政策保有株式売却益、特別損失に固定資産の減損損失を計上

単位：億円・切捨	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	増減	増減率
売上高*1	1,219	1,220	+0	+0.1%
営業利益	74	26	△48	△64.6%
経常利益	83	33	△49	△59.4%
親会社株主に係る当期純利益	61	20	△41	△67.4%
EBITDA*2	127	82	△44	△35.3%
研究開発費	27	29	+2	+7.4%
海外売上高比率	26.4%	27.2%	+0.8	-
1株当たり当期純利益	333.70円	108.58円	△225.12円	-
為替レート	\$ 112円 €131円	\$ 135円 €140円	23円円安 9円円安	
ナフサ価格	56,625円	76,625円	+20,000円	

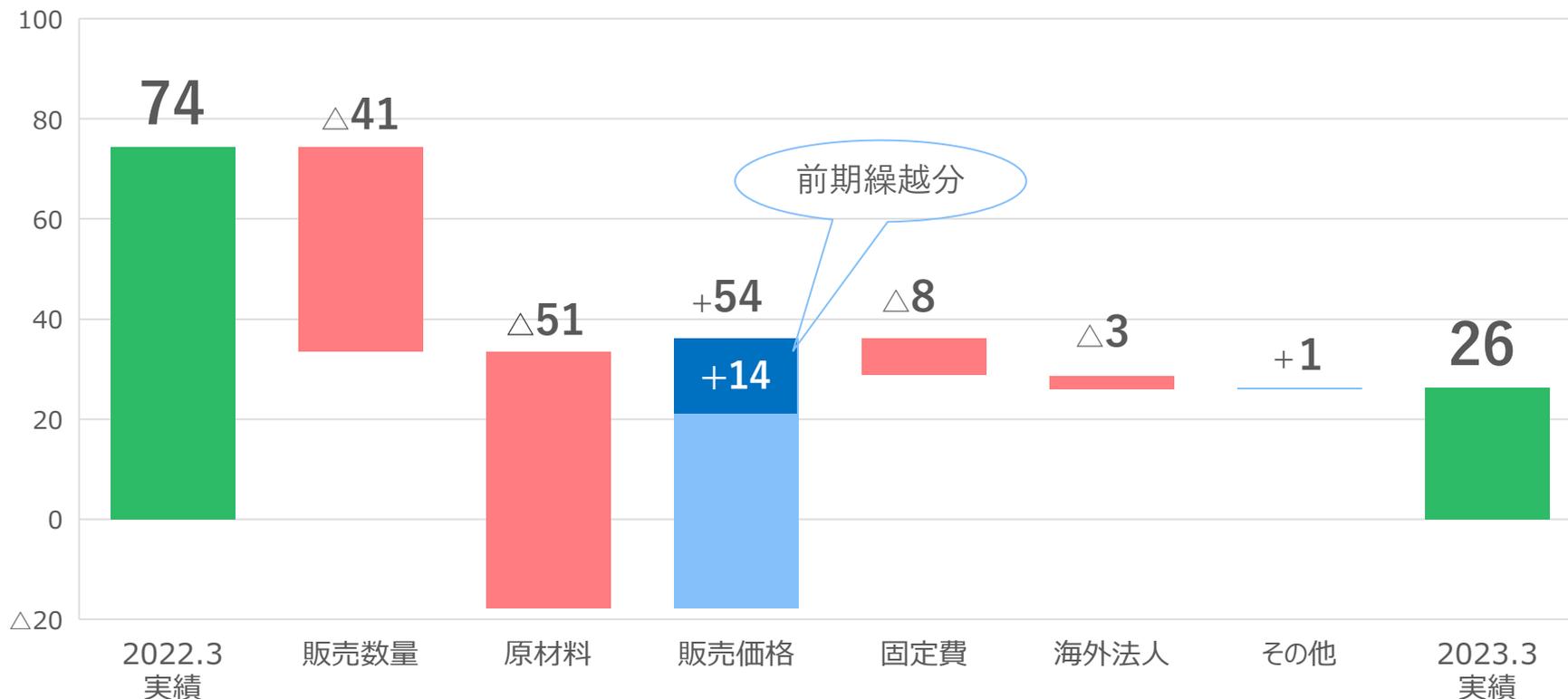
* 1 「収益認識会計基準」適用により、売上高に含まれる有償受給材料472億円を売上原価と相殺表示

* 2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

連結営業利益の増減要因 (前期・当期実績比較)

- ・販売数量 : 包装パッケージ向けインキは前年並み・自動車、液晶ディスプレイ向け製品が低調に推移
- ・原材料、販売価格 : 樹脂、溶剤等の原材料価格高止まり・販売価格の見直し進む
- ・固定費 : 活動経費(旅費・交際費)及び新工場費用(償却・移転)計上
- ・海外法人 : 華南、インドのコンパウンド好調継続も原材料価格高騰により前期比減益

単位：億円



セグメント別概況（サマリー）

- ・ C&F：海外コンパウンド好調継続も国内自動車及び液晶ディスプレイ向けの販売数量減により減収・減益
- ・ P&C：円安により海外子会社増収も液晶ディスプレイ向けの販売数量減により減益
- ・ G&P：国内外とも販売は堅調に推移も原材料価格の高止まり及び新工場費用（移転・償却）計上により減益

売上高

単位：億円・切捨	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	増減	増減率
カラー&ファンクショナル プロダクト（C&F）	702	672	△30	△4.3%
ポリマー&コーティング マテリアル（P&C）	236	236	+0	+0.2%
グラフィック&プリンティング マテリアル（G&P）	280	310	+30	+10.9%
売上高	1,219	1,220	+0	+0.1%

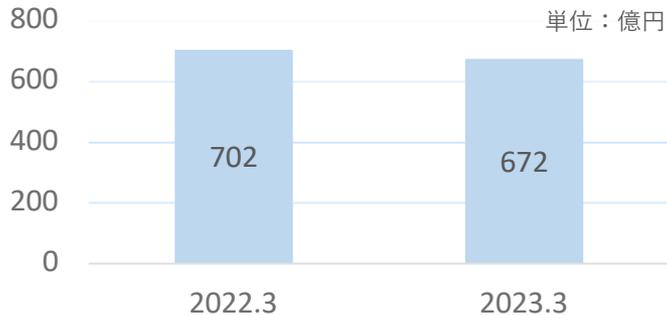
営業利益

単位：億円・切捨	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	増減	増減率
カラー&ファンクショナル プロダクト（C&F）	49	20	△29	△59.3%
ポリマー&コーティング マテリアル（P&C）	33	19	△13	△40.2%
グラフィック&プリンティング マテリアル（G&P）	△8	△13	△5	-
営業利益	74	26	△48	△64.6%

セグメント別概況（カラー&ファンクショナルプロダクト）

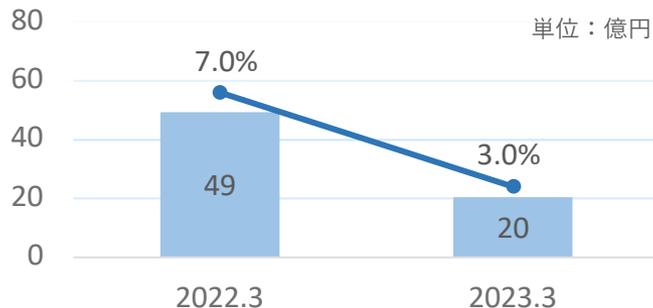
Color & Functional Products 顔料及び顔料の2次加工製品

売上高



- ✓ 国内外とも自動車向けを中心にコンパウンド・着色剤が低迷もベトナム・インド拠点が好調に推移し増収
- ✓ 液晶ディスプレイ向けの顔料及び分散体は在庫調整により通期にわたり低迷も4Qより回復の兆し

営業利益・営業利益率



- ✓ 海外のコンパウンド・着色剤拠点で増益
- ✓ 下期以降、原材料価格の落ち着きにより販売価格の見直し効果あるも、景気減速により販売数量減少により減益

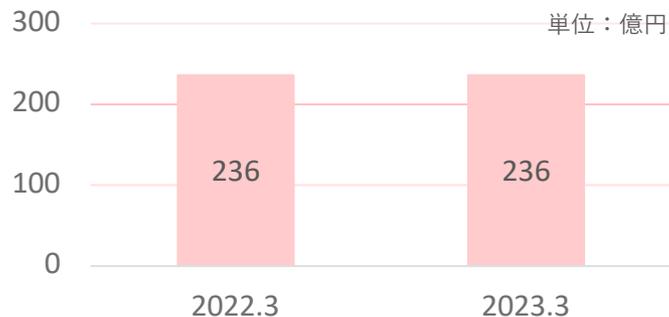
	2022.3	2023.3
EBITDA*	79	49
研究開発費	14	15
設備投資額	21	20

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

セグメント別概況（ポリマー&コーティングマテリアル）

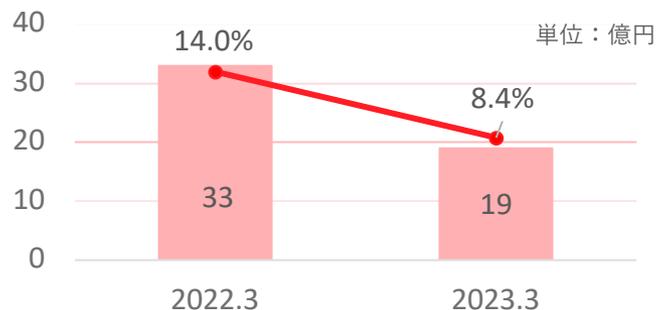
Polymer & Coating Materials 合成樹脂及び特殊コーティング剤

売上高



- ✓ ウレタン（PU）樹脂は、自動車・産業資材・アパレル用途向けの販売数量減少も販売価格の見直しにより金額は微減
- ✓ 液晶パネル在庫調整により、ディスプレイ向けコーティング剤の数量・金額とも減少も4Q後半から回復の兆し
- ✓ ウレタン樹脂の中国拠点は、自動車・衣料品向けが好調により増収

営業利益・営業利益率



- ✓ ウレタン樹脂、コーティング剤ともに販売数量の減少により減益
- ✓ ウレタン原料や溶剤等の原材料価格の落ち着きと販売価格の見直しにより下期以降の損益が改善傾向

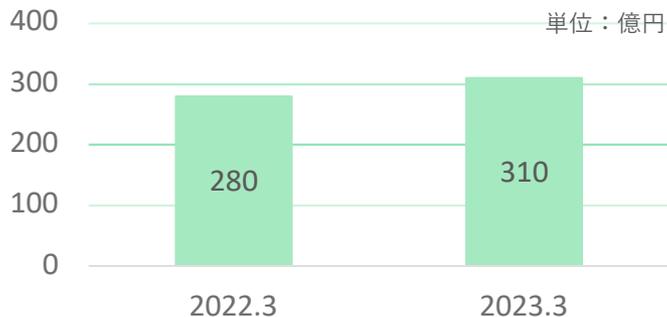
	2022.3	2023.3
EBITDA*	45	33
研究開発費	8	9
設備投資額	10	6

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

セグメント別概況（グラフィック＆プリンティングマテリアル）

Graphic & Printing Materials パッケージ用及び広告出版用インキ

売上高



- ✓ グラビアインキは、国内は包装パッケージ向けが数量・金額ともに前年並みに推移も主に海外向けの情報電子・建材向けが低調に推移
- ✓ 海外は、コロナ禍から回復したインドネシア拠点が増収
- ✓ 広告出版向けのオフセットインキは需要減少により減収が続く

営業利益・営業利益率



- ✓ 販売価格の見直しを進めるも、樹脂・溶剤等の原材料価格の上昇の影響を受ける
- ✓ 坂東製造事業所稼働による減価償却費等の固定費増、移転費用の計上
- ✓ 海外法人インドネシアは原材料価格高止まりに対して販売価格の見直しが進まず減益も期末にかけて回復傾向

	2022.3	2023.3
EBITDA*	1	△1
研究開発費	4	4
設備投資額	18	15

- ✓ 国内事業について、収益性の低下により、特別損失に減損損失17億円を計上→P17改善計画へ

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

セグメント別概況（グラフィック&プリンティングマテリアル）

事業モデル変革による黒字化

～強みある分野と高機能製品への注力～

現状及び課題

- ✓ 成熟市場
- ✓ 環境対応
- ✓ 拠点統合



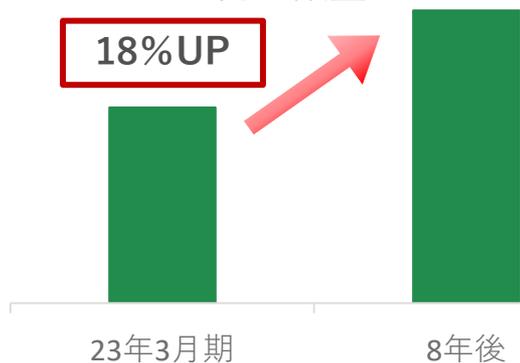
対応及び方針

- ◆ 強みである市場・得意先・製品に注力（ラベル・水性フレキソ）
- ◆ 塗加工技術を活かし、成長が見込める分野への拡大（情報電子・産業資材）
- ◆ 坂東新工場へ移転による合理化推進

強みある製品への注力

→売上数量UP

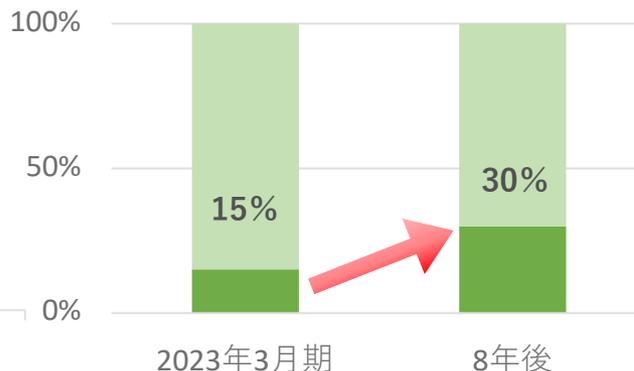
18%UP



■ ラベル・水性フレキソ

成長分野の拡大

→売上構成比率の転換



■ 情報電子・産業資材 ■ 包装その他

拠点統合による合理化

✓ 人財の再配置

- ・ 重複業務の解消
- ・ 重点分野への投資
- ・ 生産効率化

✓ 固定費の削減

連結貸借対照表

- ・資産：総資産減少・原材料高騰で「棚卸資産」が増加・売上減少により「売掛債権」は減少
「有形固定資産」は減損損失計上により減少・政策保有株式売却により「投資有価証券」減少
- ・負債：負債計減少・仕入減少により「支払手形・買掛金」減少・「有利子負債」は返済済み減少
- ・純資産：純資産増加・配当金前期末@40円、中間@40円実施・円安、退職給付債務の減少により
「その他の包括利益累計額」が増加

単位：億円・切捨	2022年3月期	2023年3月期	前年度末比 増減		2022年3月期	2023年3月期	前年度末比 増減
流動資産	1,113	1,102	△10	流動負債	594	535	△59
固定資産	853	825	△28	固定負債	267	249	△18
有形	523	497	△25	負債	862	784	△77
無形	19	13	△5	有利子負債	329	309	△19
投資	311	313	+2	純資産	1,104	1,143	+38
資産	1,967	1,927	△39	負債・純資産	1,967	1,927	△39

	2022年3月期	2023年3月期	増減
DEレシオ	0.30	0.28	△0.02
自己資本比率	55.1%	58.1%	+3.0
BPS	5,868.51	6,060.11	+191.60
PBR	0.35	0.29	△0.06
ROA	4.2%	1.7%	△2.5%
ROE	5.9%	1.8%	△4.1%

連結キャッシュフロー計算書

- ・ 営業CF：税金等調整前当期純利益減、減価償却費前年並み
- ・ 投資CF：有形固定資産の取得による支出（坂東製造事業所など）・投資有価証券売却（政策保有株式）
- ・ 財務CF：長短借入金の返済及び配当金の支払い

単位：億円・切捨	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	増減	増減率
営業CF	+ 75	+ 30	△45	△60.4%
投資CF	△66	△21	+44	△67.0%
財務CF	△114	△38	+75	△66.4%
現金及び現金同等物の期末残高	248	231	△17	△7.1%

債務償還年数 * 1	4.3年	10.3年	+ 6.0年
インタレスト・カバレッジ・レシオ * 2	22.3倍	10.3倍	△12.0

* 1 債務償還年数 = 有利子負債 ÷ 営業CF

* 2 インタレスト・カバレッジ・レシオ = 営業CF ÷ 支払利息

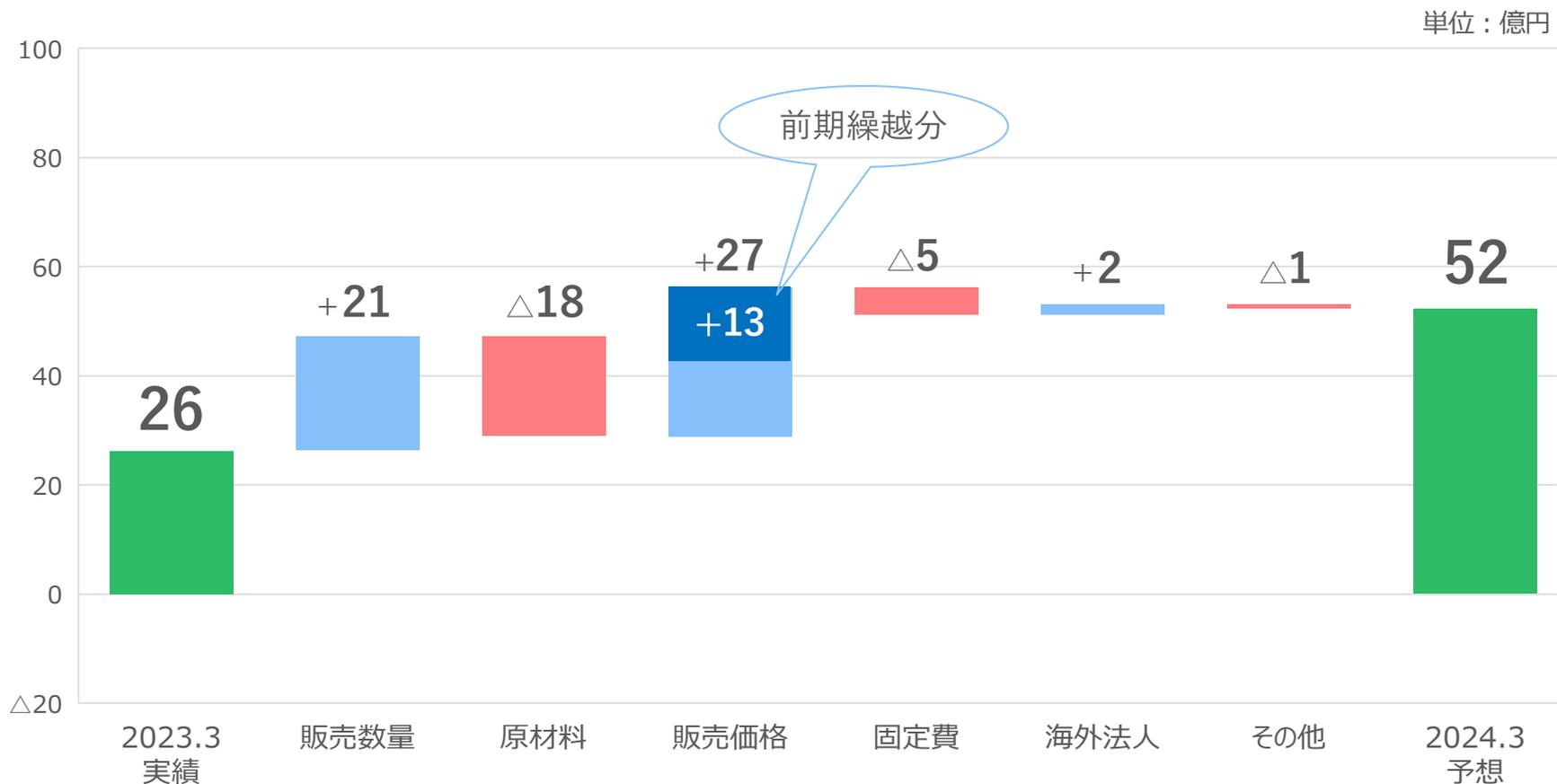
2024年3月期業績予想

- ・売上高 : 下期以降、自動車及び液晶パネル向け需要の回復により増収
- ・営業利益 : 売上高増収及びユーティリティ費用上昇も販売価格の是正を進め増益

単位：億円・切捨	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	増減	増減率
売上高	1,220	1,280	+59	+4.9%
営業利益	26	52	+25	+97.3%
経常利益	33	56	+22	+66.0%
親会社株主に係る当期純利益	20	43	+22	+114.2%
EBITDA*	82	103	+21	+26.0%
1株当たり当期純利益	108.58円	232.54円	+123.96円	-
為替レート	\$ 135円 €140円	\$ 135円 €145円	- 5円円安	
ナフサ価格	76,625円	72,000円	△4,625円	

2024年3月期業績予想（連結営業利益の増減要因）

- ・販売数量：下期以降、自動車及び液晶パネル向けの需要が回復
- ・原材料、販売価格：一部原材料価格の上昇継続・ユーティリティ費用等の上昇に対する販売価格見直し
- ・固定費：活動経費増（旅費・交際費）
- ・海外法人：東南アジア・インドのコンパウンド会社好調継続



2024年3月期業績予想（セグメント別）

- ・ C&F及びP&C：両セグメントとも国内外の自動車及び液晶ディスプレイ向け需要が回復により増収・増益
- ・ G&P：売上高は国内外とも堅調を見込む 新工場費用移転費用なくなり減益幅縮小

売上高

単位：億円・切捨	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	増減	増減率
カラー&ファンクショナル プロダクト（C&F）	672	705	+32	+4.9%
ポリマー&コーティング マテリアル（P&C）	236	250	+13	+5.7%
グラフィック&プリンティング マテリアル（G&P）	310	325	+14	+4.6%
売上高	1,220	1,280	+59	+4.9%

営業利益

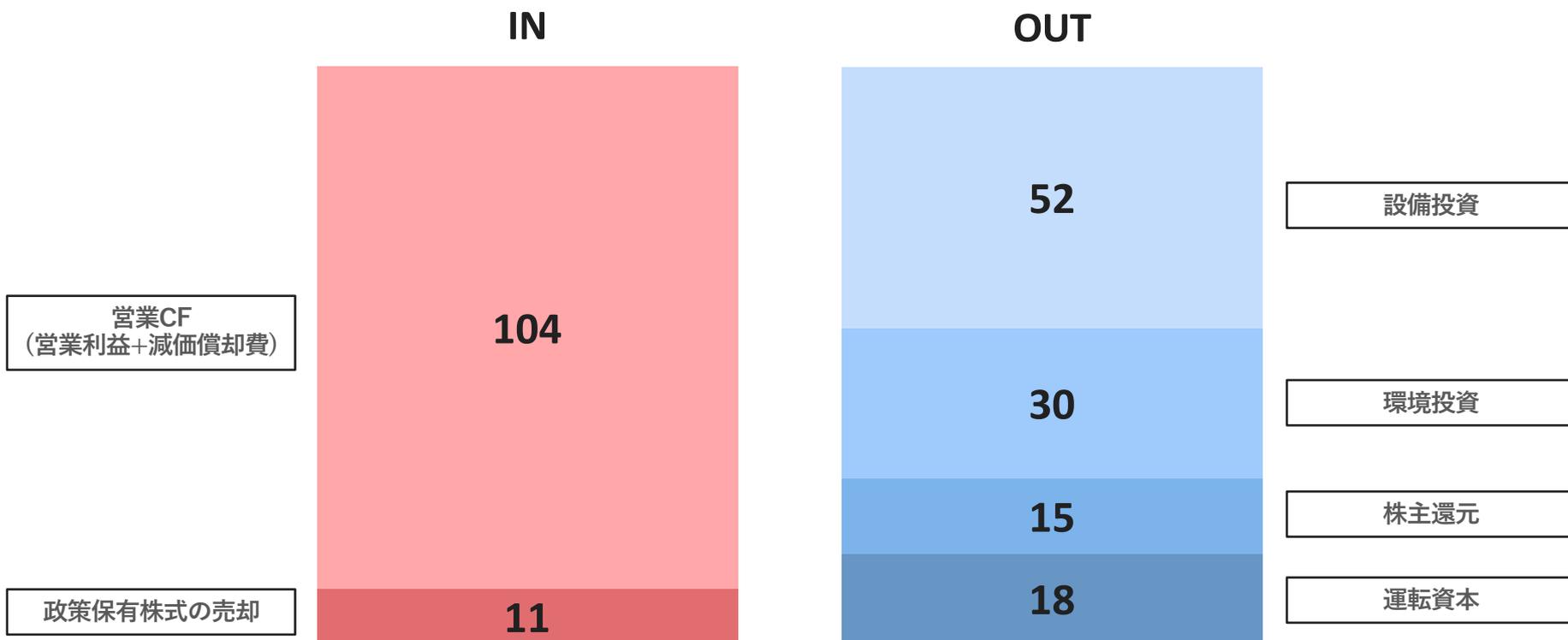
単位：億円・切捨	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	増減	増減率
カラー&ファンクショナル プロダクト（C&F）	20	29	+8	+44.6%
ポリマー&コーティング マテリアル（P&C）	19	27	+7	+36.6%
グラフィック&プリンティング マテリアル（G&P）	△13	△4	+9	-
営業利益	26	52	+25	+97.3%

キャピタル・アロケーション

IN : 営業CFをベースに引き続き政策保有株式の売却を継続

OUT : 設備・環境投資をしつつ、安定的な株主還元を実施

キャッシュ・フロー



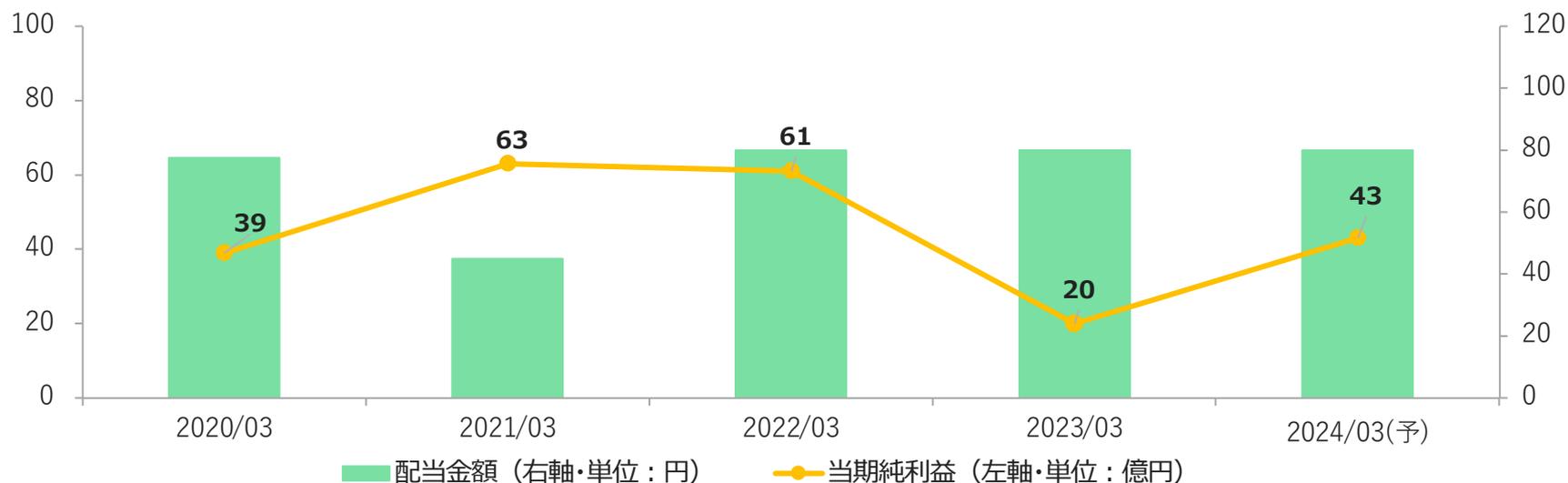
株主還元（配当金）

【配当政策】

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上の観点から、将来の事業展開、経営基盤の強化並びに内部留保の充実等の事項を総合的に勘案しつつ、株主各位への利益還元を重視した配当政策を継続的に実施することを基本方針としております。

【配当方針】

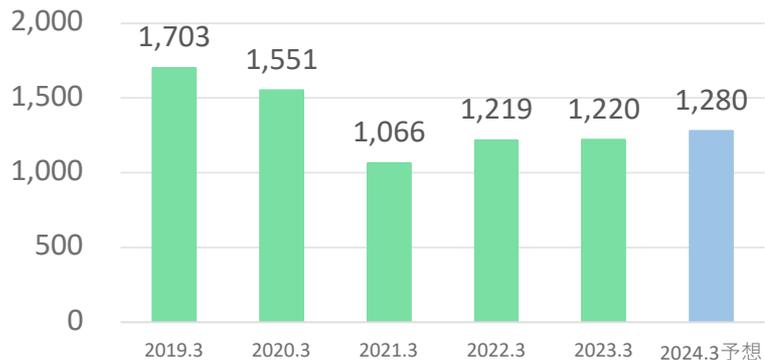
- ・業績に連動した安定的、継続的な株主還元を着実に実施
- ・財務体質の健全性を維持しながら、成長に向けての投資及び環境投資へ優先的に配分
- ・配当性向 2～3割程度を計画



	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
1株当たり配当 (円)	77.5	45.0	80.0	80.0	80.0
配当性向	36.2%	13.2%	24.0%	73.7%	34.4%

業績推移 (通期・四半期)

売上高・通期 (単位: 億円)

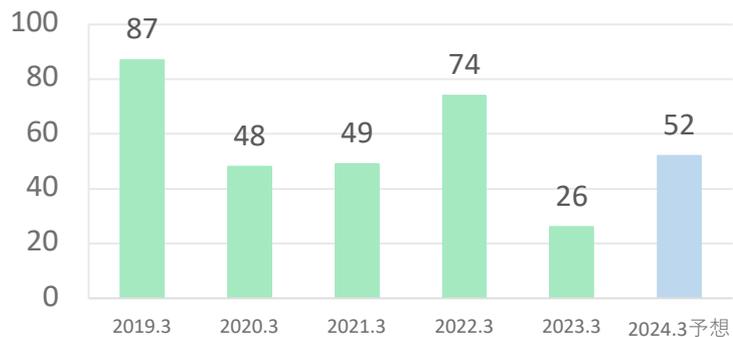


※2021年3月期以降の通期及び四半期売上高は「収益認識に関する会計基準」を適用後の数値

売上高・四半期 (単位: 億円)



営業利益・通期 (単位: 億円)



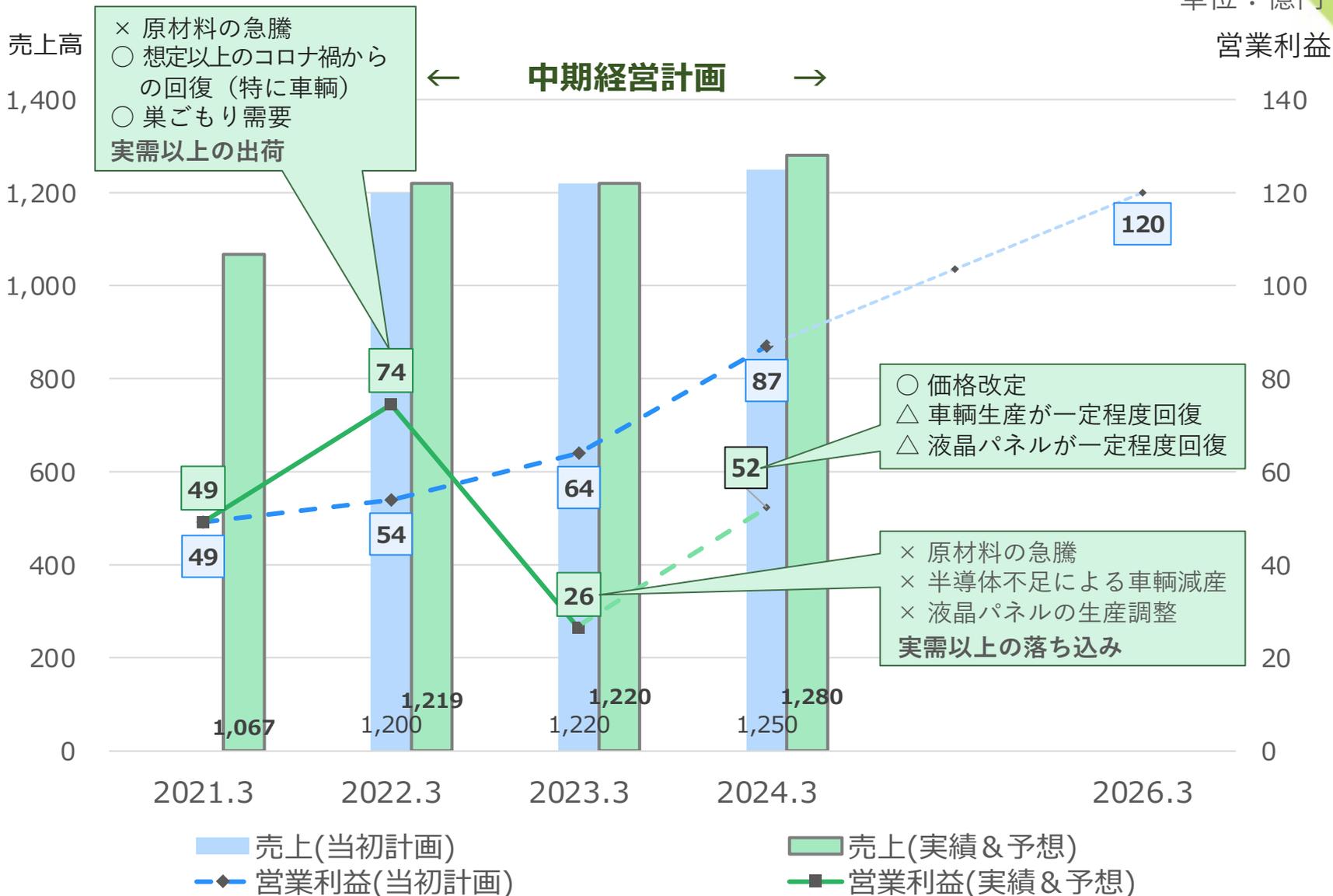
営業利益・四半期 (単位: 億円)



3. 中期経営計画 進捗状況

中期経営計画 業績見通し

単位：億円



① 長期ビジョン、基本戦略

「10年後のありたい姿」

ミッション

- ✓ 技術力を生かしニッチマーケットで社会に貢献し続ける
- ✓ サステナブル社会の実現に向けた課題解決と新たな価値創造に取り組む

基本戦略

- ✓ 資本効率を重視した経営（ROE 9%以上、ROA 5%以上）
- ✓ 技術主導による競争優位性の確保
- ✓ サステナブル社会の実現に向けたESG重視の経営推進
- ✓ 事業基盤の強化のための海外事業の拡大（海外売上高向上）

① 長期ビジョン、基本戦略—戦略の方向性

2021.3月実績

売上	営業利益
1,066* ¹ 億円 (1,384)億円	49 億円

*¹ 収益認識に関する会計基準を適用した場合の数値



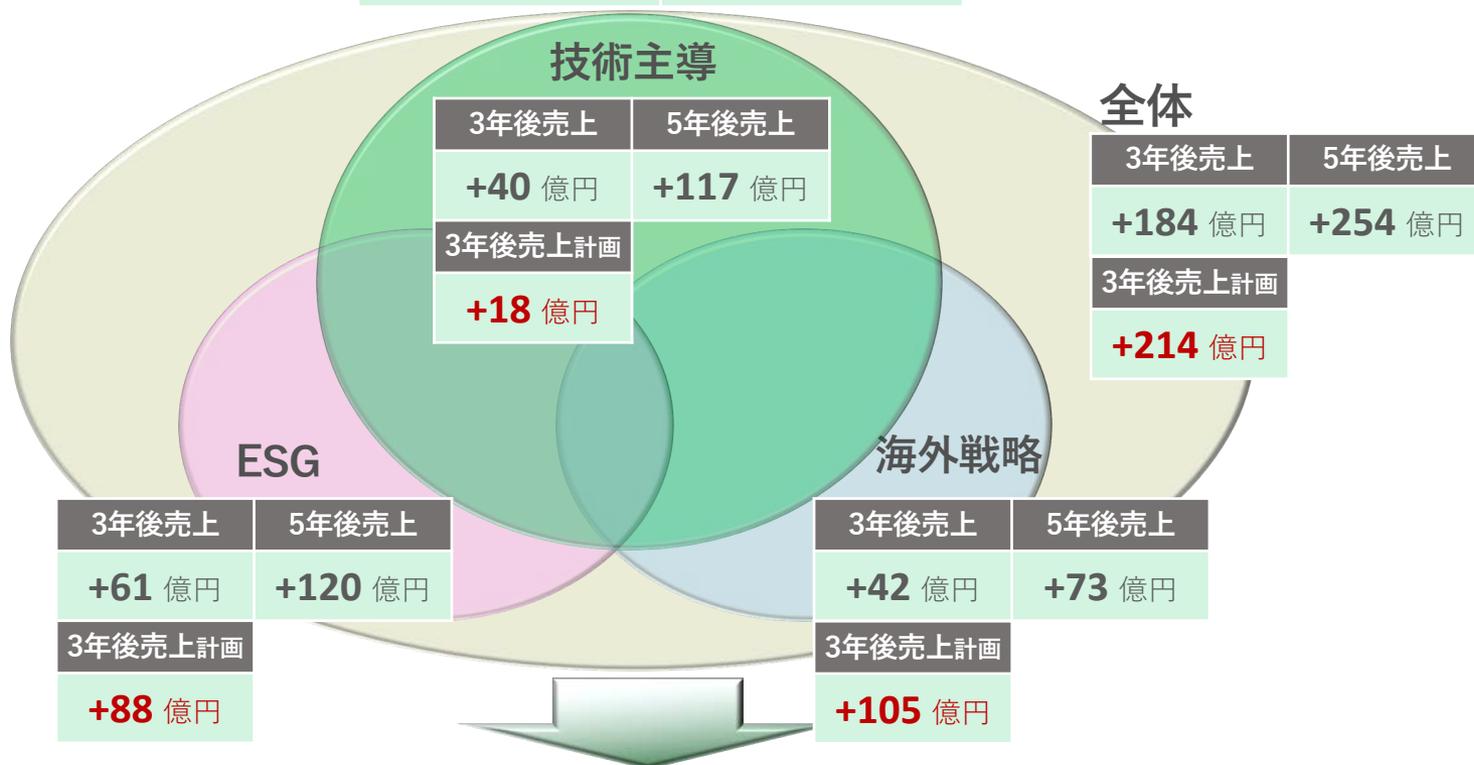
3年後（2024.3月）数値目標

売上	営業利益
1,250 億円	87 億円
3年後売上計画	3年後営業利益計画
1,280 億円	52 億円



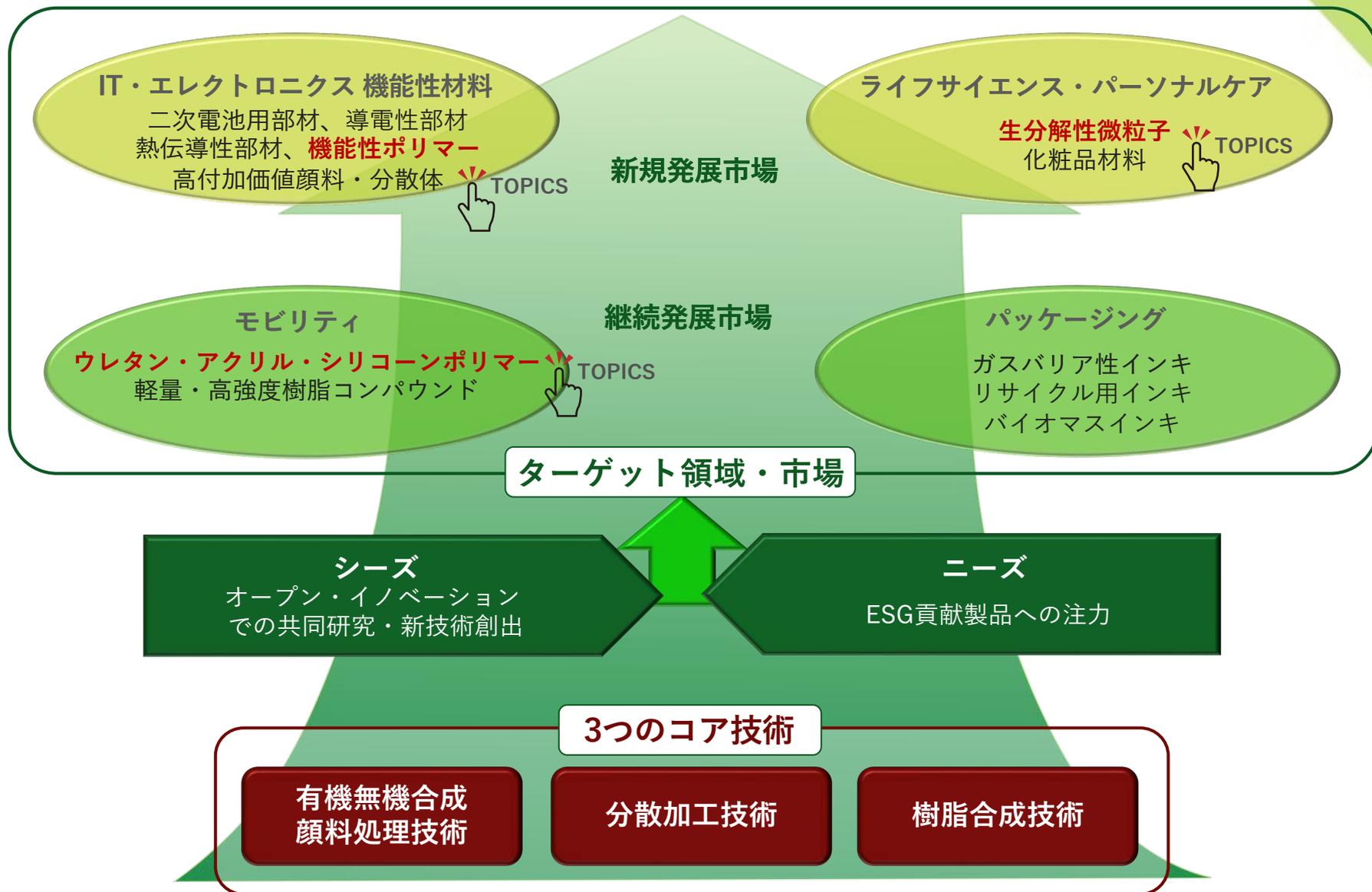
5年後（2026.3月）数値目標

売上	営業利益
1,320 億円	120 億円



ROE 9%以上、ROA 5%以上を産み出す利益体制の構築

② 技術テーマーロードマップ^o新規事業



② 技術テーマー技術主導による競争優位性の確保… 既存事業の進化・拡大



市場投入段階

製品化に向けた開発の進展

モビリティ

高固形分PUD（水系ポリウレタンディスページョン）

ポリウレタンの水性化

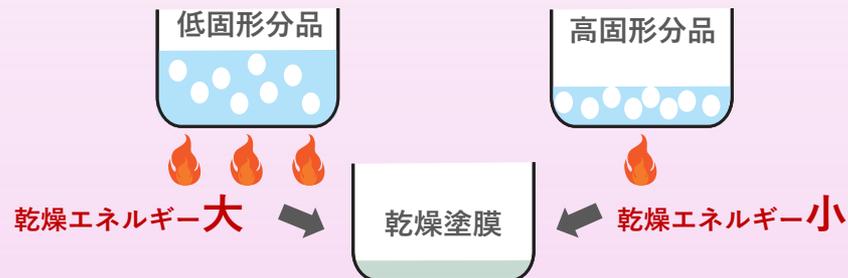
水性化により環境負荷を低減しつつ、水性製品では困難だった高い機能性を実現

特徴1 環境負荷の少ない水性ポリウレタン



水性化により脱炭素に貢献

特徴3 高固形分（高濃度）による環境貢献



- ・ 貯蔵コスト、輸送コストの削減
- ・ 乾燥エネルギー削減

省エネに貢献

特徴2 水性では困難だった高い機能性

	風合い (ソフト感)	耐久性	環境 対応
油性	○	○	×
従来水性	×	×	○
当社 水性品	○	○	○

用途



自動車インテリア



家具・ファブリック

② 技術テーマ—技術主導による競争優位性の確保… 研究開発成果



市場投入段階

製品化に向けた開発の進展

ライフサイエンス・パーソナルケア

生分解性微粒子

天然素材系の高機能化粧品用セルロースパウダー

海洋汚染につながるマイクロプラスチック問題を解決しつつ、従来品に劣らない心地よい触感を実現

特徴 1 生分解性を有する天然素材系ポリマー
(欧州先頭に石油化学品排除の方針)

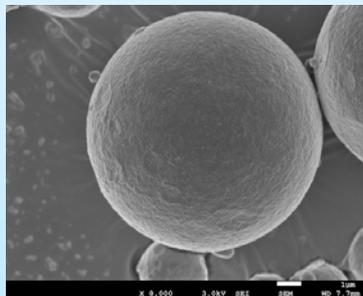


マイクロプラスチックによる海洋汚染

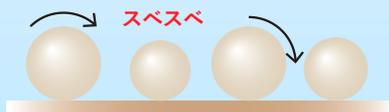


生分解性天然素材で解決

特徴 2 真球状の形状によるなめらかな触感



電子顕微鏡写真

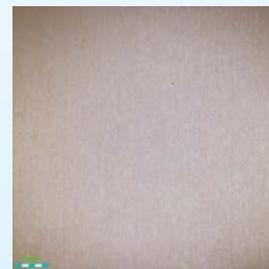


皮膚上でなめらかに転がる真球状ビーズ

特徴 3 素材の組み合わせでシワを目立ちにくく



肌の表面



ビーズの効果でシワ等をカバー

用途



② 技術テーマ—技術主導による競争優位性の確保… 研究開発成果



TOPIX 4

市場投入段階

一部上市

エレクトロニクス

機能性ポリマー 耐熱高分子

高耐熱ポリウレタン接着剤

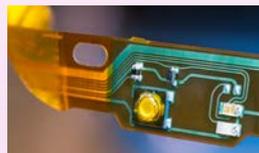
エレクトロニクス機器の小型化やデザイン性向上に貢献

背景

電子機器の高機能化・小型化が進行、電子基板も硬質から軟質へ



硬質基板 (通称：リジット)



硬質軟質基板 (通称：リジットフレキ)



軟質基板 (通称：フレキ)

課題

従来品の軟質基板用接着剤は硬く折り曲げに弱い
当社官能基付与型ウレタン接着剤は柔らかく折り曲げに強い

従来品



割れが発生



当社開発品



折り曲げ可能

効果

電子基板が柔軟化することで魅力のある電子機器の設計が可能



折り畳みスマホ



VRゴーグル



収納型ディスプレイ



ウェアラブル機器

③ ESGテーマ—主要マテリアリティとそのサステナビリティ目標 進捗状況

製品開発力、新規事業推進

ESG貢献製品
売上高向上

2024年3月期 目標	2023年3月期 実績
2021年3月期比 20%増	2021年3月期比 19%増

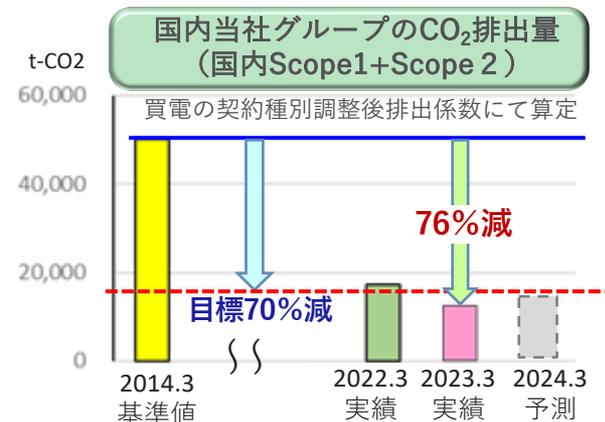


中期目標の達成目前であるが、対前年度比で1%減

気候変動対策（地球温暖化防止）

国内当社グループの
エネルギー使用に
伴うCO₂排出量

2024年3月期 目標	2023年3月期 実績
2014年3月期比 70%削減	2014年3月期比 76%削減

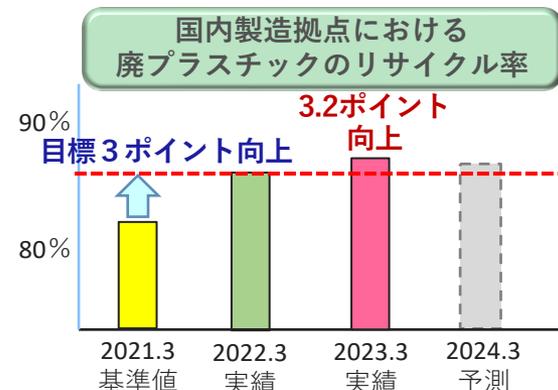


国内製造拠点で電力の再エネ化が完了、燃料の電化が進行

サーキュラーエコノミー推進（資源循環型経済）

国内製造拠点から排出
される廃プラスチック
リサイクル率向上

2024年3月期 目標	2023年3月期 実績
2021年3月期比 3ポイント向上	2021年3月期比 3.2ポイント向上



廃棄物の分別を推進、廃プラスチック リサイクル率 向上

④ 海外テーマー海外事業の拡大（中長期戦略）

セグメント	海外戦略
Color & Functional Products	<p>  欧米市場を主戦場に、顔料分散体の積極的な拡販及び現地生産を目指す。</p> <p>  欧米市場を中心に、ライフサイエンス分野の機能性材料の本格上市を図る。</p> <p>   ASEAN、中国・インド市場を中心に電線用フッ素マスターバッチの拡販、繊維用マスターバッチ市場への進出を狙う。</p>
Polymer & Coating Materials	<p> インドにてウレタン製品等の高分子製品を積極展開する。 長期的にはインドでの現地生産を検討する。</p>
Graphic & Printing Materials	<p> 引続き高い経済成長が見込まれるアジア市場をターゲットとし、生産拠点の拡充により旺盛な需要の取り込みに注力する。</p>

④ 海外テーマ—海外中期計画（2022.3～2024.3）… 2023.3進捗報告

連結補正前の単純合算数値

(金額：億円)

海外売上高	2021.3 実績	2022.3 計画	2022.3 実績	2023.3 当初計画	2023.3 実績	2023.3 計画差	2023.3 修正計画	2024.3 当初計画	2024.3 修正計画	2021.3: 2024.3
Color & Functional Products	170	174	237	184	238	+55	225	192	242	+72
Polymer & Coating Materials	77	82	95	89	99	+10	96	95	101	+23
Graphic & Printing Materials	77	77	74	78	91	+12	78	80	87	+9
合計	324 _{※1}	333	406	351	428	+77	399	367	429	+105

※1 2021年3月期実績は、収益認識に関する会計基準を適用した場合の数値

Color & Functional Products 顔料及び顔料の2次加工製品

<概況>

22年3月期にコロナ禍からの想定以上の回復や巣ごもり需要による数量の伸張があったが、23年3月期はそれらの反動減、上海ロックダウン、半導体不足に伴う自動車の生産調整があり、数量では下回った。金額では、円安と値上げの影響により、前年とはほぼ同額、中計との比較では大きく上回った。

<テーマ進捗>

情報電子分野、高機能着色剤、機能製品の開発
テーマに注力

△

**IJ分散液・顔料は巣ごもり需要後の調整あり
フッ素用着色剤は順調な出荷
IJの生産委託先で試作進行中**

海外（ASEAN）では、樹脂コンパウンドを拡販

○

**EV化/CASE（電装部品）、食品包材関連
による需要増の取り込みが拡大
DCTで新工場の増設が順調に進行中**

コロナ禍からの立ち直り等に伴う需要の回復
及び拡販

×

**サプライチェーン混乱による自動車
減産の影響を受け、販売量減少**

④ 海外テーマ—海外中期計画（2022.3～2024.3）…2023.3進捗報告

Polymer & Coating Materials 合成樹脂及び特殊コーティング剤

<概況>

工場等で使われるバーコード印刷向けの感熱記録用コーティング剤は、20年3月期～23年3月期で一定の拡大は維持も、22年3月期に国際物流の混乱に伴う前倒しの発注があったため、23年3月期は反動減となったが、値上げや円安の影響もあり、当初計画は上回った。

<テーマ進捗>

世界3拠点（日本、北米、中国）を核に、水性、バイオマスを中心としたESG貢献製品の展開を図る。



中国で水性表面処理剤の採用が増加。

Graphic & Printing Materials パッケージ用及び広告出版用インキ

<概況>

23年3月期は、コロナ禍でインドネシア政府主導による活動規制が続き、需要不安定で売上数量は当初計画を下回る。原材料費の高騰による販売の価格転嫁と円安の影響により、売上高では当初計画を上回った。

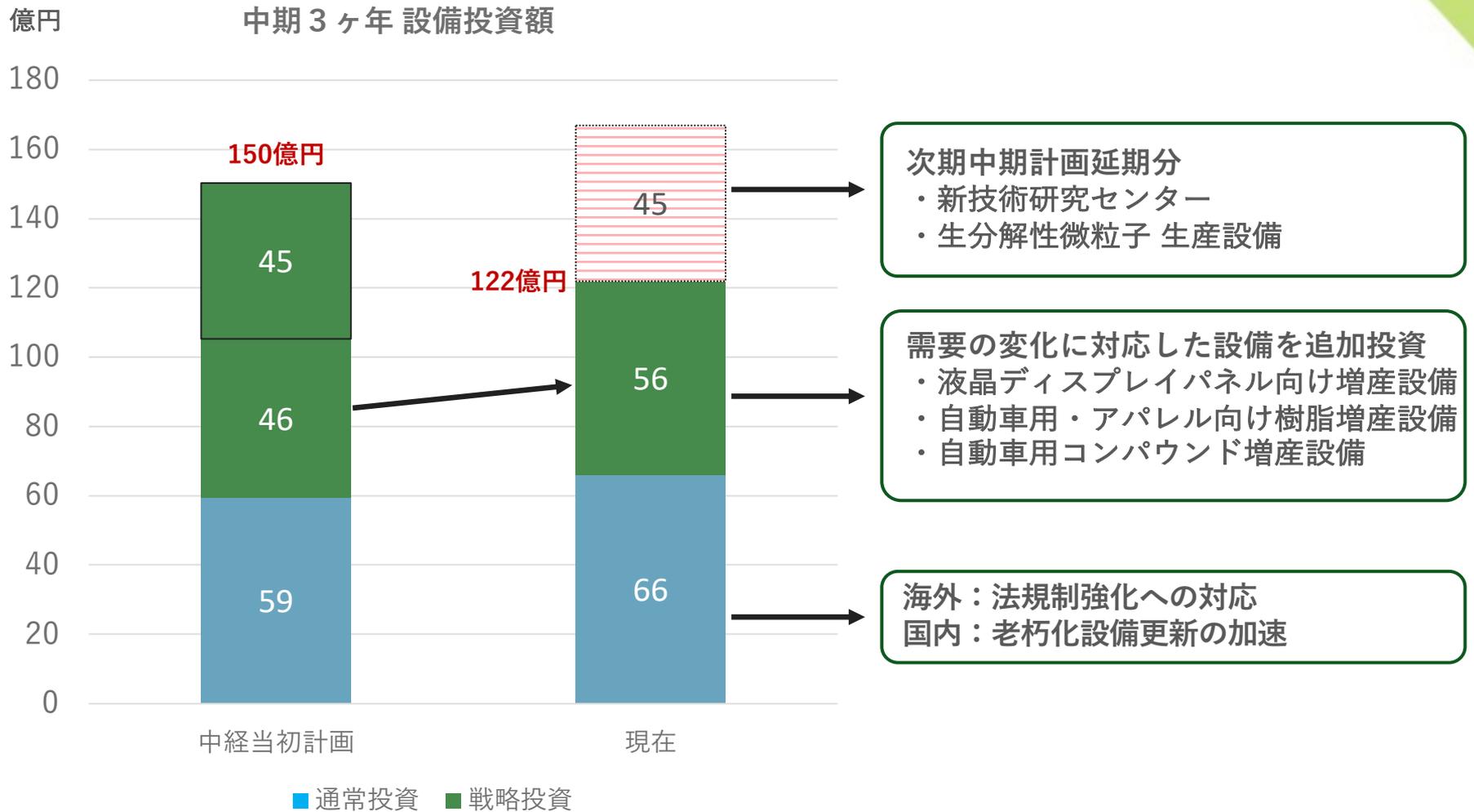
<テーマ進捗>

ASEAN（インドネシア）地区で地産地消による拡販を進める。



HTIはコロナ禍の影響により売上数量では当初計画割れ。

3カ年の設備投資 進捗



本資料の取り扱いについて

- ☑ 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動することがあります。従いまして、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性等がありますことを、予めご了承ください。
- ☑ 本資料に掲載されている情報に関して、当社は最新の注意を払っておりますが、掲載した情報に誤りがあった場合や、第三者によりデータの改ざん、データダウンロード等によって生じた障害等に関し、事由の如何を問わずに一切責任を負うものではありません。

【IRに関するお問い合わせ先】

大日精化工業株式会社 広報本部

TEL : 03-3662-1638

Web : <https://www.daicolor.co.jp/>

Mail : d-mailto@daicolor.co.jp